

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立近代美術館
所在地	高崎市綿貫町992-1
所管部局・課	地域創生部 文化振興課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

社会教育法、博物館法、群馬県立美術館の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

(1) 設置目的

美術に関する県民の知識及び教養の向上を図り、もって県民文化の振興に寄与する。

(2) 設置当初の状況

明治100年記念事業の一環として、本県美術の振興を図るため、昭和49年10月に開館した。

(3) 施設を取り巻く現状

作品の収集・保存、常設展示・企画展示、解説会をはじめとした教育普及事業など、様々な活動を行ってきたが、施設が老朽化したことから大規模改修を行い、平成20年4月にリニューアルオープンした。

入館者は開館以来平成29年9月に500万人を超え(R5.3 5,275,026人)、平成29年度～令和5年度の平均年間入館者は約5万8千人となっている。

厳しい財政状況の中、公共施設のあり方検討委員会の中間報告を踏まえて、民間企業との共催による企画展やメリハリのある企画展の開催、教育普及事業の強化など、県民目線に立ち魅力ある美術館づくりに努めている。

3 施設の概要

設置年月日	昭和49年7月1日(開館10月17日)
敷地面積(所有者)	9,347.56平方メートル(群馬県)
主な施設(床面積、階数等)	展示室、講堂、アトリエ、レストラン、ハイビジョンシアター他(12,530.94平方メートル、地上2階(一部3階建て))
建設費	4,132,379千円
備考	平成9年度現代美術棟を増築(223,307万円)、平成18～19年度アスベスト除去・耐震補強・空調設備一部更新等の改修(123,651万円)工事を実施

◇入園料・利用料等

(円) ◇利用時間(休館日)

区分	金額	9:30～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館(祝日の場合はその翌日) 年末年始
一般	300、団体240	
大学生・高校生	150、団体120	
中学生以下	無料	
障害者・介護者	無料	

4 施設における実施事業

○企画展・コレクション展の開催

本物の体験、本物の感動を伝えるため、様々な領域における美術を紹介する企画展や所蔵・寄託作品から選別したコレクション展示を行う。

・企画展は年4回程度実施。コレクション展示は、企画展の会期等を踏まえ、年間数回の作品の入替えを実施。

○教育普及事業

美術作品の理解を深め、新たな感動を伝えるための解説会、講演会などを開催するほか、子どもたちの豊かなこころを育むため、学校教育との連携を深めるなど、様々な教育普及事業を実施する。

・アートイベント(講演会、解説会、美術講座、ワークショップ等)、学校教育・社会教育との連携、ボランティアによる事業、近代美術館友の会との連携

5 管理運営コストの状況

施設の管理運営に係る収支 ※施設の管理運営に係る県の歳入・歳出を記載

(千円)

区 分	5年度(決算額)	4年度(決算額)	3年度(決算額)	2年度(決算額)	元年度(決算額)	H30年度(決算額)	H29年度(決算額)
歳 入(①)	14,270	14,457	12,381	9,105	13,009	16,401	11,702
使用料	13,366	11,979	7,436	6,422	10,754	15,121	10,387
雑入(文化振興課)	904	2,478	4,945	2,683	2,255	1,280	1,315
歳 出(②)	319,530	323,821	305,556	295,833	326,586	327,721	351,838
常勤職員	105,559	112,174	114,125	120,231	122,767	128,406	144,140
非常勤職員	28,035	27,553	27,524	26,263	24,722	24,742	24,656
管理運営費	145,060	147,495	127,483	118,174	134,585	129,471	135,770
事業費	40,876	36,599	36,424	31,165	44,512	45,102	47,272
歳入・歳出の差額(①-②)	-305,260	-309,364	-293,175	-286,728	-313,577	-311,320	-340,136
歳入・歳出の主な増減理由	(歳入)H30年度 企画展「モリスと英国の壁紙」、「サラ・ベルナールの世界」が好評で、使用料のうち、観覧料収入が増加。R元年度 コロナ禍で1ヶ月の臨時休館により、観覧料収入が減少。R2年度 コロナ禍で3ヶ月の臨時休館及び外出自粛の影響で、観覧料収入が減少。R3年度 補助金の増加により、雑入が増加。R4、R5年度 コロナ禍収束に伴い、観覧料収入が増加。 (歳出)H30年度 常勤職員2名減による常勤職員人件費が減少。R2年度 コロナ禍の臨時休館で電気料、灯油購入が減少し、管理運営費が減少。R4年度 電気料の高騰に伴い、管理運営費が増加。R5年度 常勤職員(技術職)1名減による常勤職員人件費が減少。						

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
常勤職員	12	13	13	14	14	15	17
非常勤職員	14	12	12	12	12	11	11
合 計	26	25	25	26	26	26	28

7 施設利用の状況

年度別の利用者数

区 分	5年度※1	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
年間利用者総数(人)	53,991	44,961	34,563	20,983	74,224	97,557	85,238
有料利用者数(人)	19,161	18,553	11,536	9,500	24,327	36,523	25,187
無料利用者数(人)	34,830	26,408	23,027	11,483	49,897	61,034	60,051
目標利用者数(人)※2	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	80,000
施設稼働率(%)※3	-	-	-	-	-	-	-

稼働率対象施設(設備)	—
利用者の主な増減理由	(H29→H30増加理由)企画展「モリスと英国の壁紙」、「サラ・ベルナールの世界」が好評で観覧者増。 (H30→R1減少理由)コロナ禍で1ヶ月の臨時休館による観覧者減。 (R1→R2減少理由)コロナ禍で3ヶ月の臨時休館及び外出自粛の影響による観覧者減。 (R2→R3→R4→R5増加理由)コロナ禍の収束に伴い、観覧者増。

※1 令和5年度末時点の利用者数

※2 目標利用者数を設定していない場合は無記入

※3 施設稼働率の概念が当てはまらない施設は無記入

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区分	内 容
施設の必要性	現在、当館は、美術作品に係る年4回程度の企画展の開催を中心に関係事業を展開。観覧者へのアンケート調査でも企画展が「大変良かった」「良かった」の合計は、概ね8割を超えている。観覧者に係る目標値は、企画展について下回ることが多かったが、R4年度の企画展については、大きく上回るものがあった。 美術館は、県内においても、市町村立の施設など、各所に立地しているが、当館は、建物自体も芸術作品であり、独自のコレクションと相俟って、当館ならではの展示等の事業を展開している。施設・収蔵庫等の規模も大きく、県内他美術館に比して収蔵品が多く、世界的に著名な画家から郷土の画家まで様々な作品を収蔵し、県民の多様なニーズに応じた展覧会が可能であり、保管・管理、他館からの貸し出し要請対応などの役割を果たしている。 なお、その建物・施設も年数が経過し、それなりのコストを必要としているが、単純にコスト計算だけでは計れない県民文化の向上等を目的としており、県内の中核美術館としての当館の果たす役割は失われていないと考える。 また、地域を代表する憩いの場「群馬の森」にある、歴史ある美術館として、地域に親しまれ、他の美術館とは、作品の貸し出し要請への対応、その他情報交換等を行うなど、一定の協力関係を有している。今後も、県内を代表する、県民に親しまれる美術館として、企画展等の実施を中心に運営していく意義があるものとする。
指定管理者制度	他団体に管理運営を任せることについて、これまで県として開催したような展覧会を開催できる団体は、企画に携わるスタッフ(学芸員等)や、作品を集めるためのつながり・人脈、ノウハウ等の点から、明確に認めることができる団体は現状見当たらない状況にある。 また、県が直接運営する美術館として、企画展示等のために作品を借りる際の信用性は極めて大きい。さらに、他の美術館や、巡回展を主催する団体(新聞社など)とも、これまでのつながりなど踏まえ連携がとれる状況にあり、外部団体のノウハウを活用する必要性は小さいと考える。 以上のとおり、県が直接管理することについて、県内の美術館の中核施設として、企画展等の開催を直営のメリットを活かしながら開催していくことの意義は小さくないと考える。
業務等の見直し	当館のコストについて、主なものは、展示事業および施設の管理・維持費の固定費的なものであり、現状においてコストを大きく削減をしていくのが厳しい状況にある。また、外部委託についても、警備(24時間の人的警備)、展覧会監視・受付等の人件費の大きくかかる部分をすでに業務委託している。なお、北関東の他県美術館の予算や入館者数を比較しても、コスト高とはいえないと思われる。 観覧者数については、メインの企画展について開催してみないとわからない面があるが、R4年度の企画展では目標値を大きく上回ったものもあることから、テーマ選定をはじめ、引き続きより多くの県民によりよい展覧会が提供していけるようにしていきたい。 また、連携等について、周辺美術館とは、作品貸し出し要請対応その他情報交換等を適宜行い、市立美術館等との友の会会員での割引連携、地域住民ボランティアの皆さんには年間を通じた館活動に協力いただいている。 PR活動については、ホームページ、SNS、新聞ラジオ等によるPRを実施。さらに、日曜美術館等での放映等の個別PR活動も行ってきた。 これまで培ってきた館運営、他館・団体、地域の方々との連携等を、今後も工夫をこらしながら推進し、日常業務の中では職員が常にコスト意識を持ちながら日々の業務を進めるとともに、より多くの県民の方等によりよい芸術鑑賞の機会が提供できるよう、企画展等の立案や開催準備を地道にしっかりと行っていく必要がある。

施設運営に当たっての課題

限られた予算と学芸員で、県民の期待に応えられる魅力的な展覧会やアートイベント等を、いかに企画・実施していくかが課題である。

施設設備関係では、開館から49年が経過し、館内のいたるところで老朽化・劣化が顕在化しており、美術館としての必要な機能を維持するため、優先順位をつけて段階的に修繕、更新等の対応を行っている。同時にウィズコロナ時代の利用者サービス向上のためのDX化に伴う環境整備も求められている。